総合的な学習の時間	第６学年	江田島市立鹿川小学校	指導者　岩田晃志

単元名

「Catch Your Dream!
～STOP！江田島の人口減少～」

本単元と関連する９年間で育成する資質・能力　　伝え合う力

日　時：令和５年11月17日（金）11：00～11：45

１　指導の方向性について

○単元観

【６学年テーマ　地域での役割】

江田島市は、広島県南部に位置する人口約21000人の市である。国勢調査によると、年齢別人口比（令和元年）で65歳以上が45%を占めており、江田島市は「超高齢社会」であり、人口減少も著しく進んでいる。また、人口流出も発生しており、地域に関わる人材が不足しているという課題がある。江田島の将来の姿を考えると、このままでは、人口減少が続き、江田島市自体の存続にも影響が出てくるといえる。

本単元は、そのような江田島を故郷とする子どもたちが、「今の自分にできること」を考え実践することを通して、江田島の魅力を再認識し、江田島の価値に気付くとともに、協働的に問題を解決することを通して、地域と関わる意義や人生を通して故郷と共生する意味、自分自身の存在意義や価値を自覚することに繋がる単元であるといえる。

○児童観（第６学年　21名）

【児童の実態】

本学級の児童は、第５学年で「海の環境」をテーマに、海浜清掃など、等身大の自分達にできる海の環境保全に取り組んだ。また、自分達で地域企業と連携し啓発活動にも取り組んだ。地域の実態から課題を見付け、課題解決に向けて学習を進める経験を積み重ねたことで、探究学習の素地は養われている。また、地域のよさを各々で理解することができている一方で、地域について依然として未知なことも多く、地域と深く関わる経験が今後も必要である。

【９年間で育成する資質・能力と関連する実態】

「主体性」

○目標に向けて、自分から進んで課題に取り組んでいる。
○もっとよい解決につながるように、相手の意見を大切にしながら協働的に学習に取り組んでいる。
△解決の見通しをもつことが苦手に感じている児童がいる。
△苦手な課題になると、あきらめがちになる児童がいる。

「伝え合う力」

○自分の意見等を相手に伝える経験を積み重ねている。
△自己表現時に、相手意識が明確でない児童がいる。
△表現内容を見直すなど、よりよい発信への意識が低い。

○指導観

【本単元における指導の方向性】

児童主体の『探究的な学び』を実現するために、次の２点に留意して指導する。

○本質的な課題解決に向けた「探究のサイクル」の充実

「課題の設定」…江田島の人口に関するデータや新聞記事等を提示し、インフォメーション・ギャップを促すことで、「少子高齢化」などの、未来の江田島に繋がる大きな課題に気付かせたい。また、地域の実態や課題を踏まえて、「自分達が将来の江田島のために今できること」という単元を通した学習課題を設定する。「魅力発見」「魅力深掘り」「魅力発信」という３つの小単元を設定し、課題解決の見通しをもたせながら、小単元に応じた適切な課題を児童と共に設定していく。

「情報の収集」…インターネットに限定せず、地域の住民へのインタビューやアンケート等も実施し、地域の生の声から情報を得ることができるようにする。

「整理・分析」…整理の視点を事前に明確にしたうえで、KJ法やフィッシュボーン図等の思考ツール等を活用して「比較」「分類」「関係付け」を行う。

「まとめ・表現」…相手意識と目的意識を明確にし、内容を見直したりリハーサルしたりする時間を確保する。

○児童のつまずきを想定したファシリテートの充実

主体的に粘り強く学びを進めることができるように、手立てを豊富にして児童の活動をスムーズにするのではなく、可能な限り、児童の意見やアイディアに基づいて学習を進めるようにする。

課題解決に向けた企画立案の際には、「解決への具体的な見通し」→「解決するための条件確認」→「相手の立場や考えを考慮した企画の立案」という流れを明確にすることで、課題解決への道筋を考えやすいようにする。計画を実行した際には、振り返りを通して、つまずいた点を児童と確認をし、再実行に生かすことができるようにする。児童自身で改善案を思案できる場合、問いかけを中心としたコーチングを取り入れた指導に取り組む。思案できない場合は、実施可能な手段を複数提案することで、児童に「選択」と「自己決定」の場を確保できるようにする。